

## 社会学研究室文献リスト〔2014年度〕

- ・青田昌秋, 2013, 『流氷の世界』成山堂.
- ・アジア太平洋資料センター編, 『徹底解剖 100円ショップ 日常化するグローバリゼーション』コモンズ.
- ・池谷孝司, 2014, 『スクールセクハラ なぜ教師のわいせつ犯罪は繰り返されるのか』幻冬舎.
- ・伊藤理史／三谷はるよ, 2013, 『大阪府民の政治・市民参加と選挙に関する社会調査』の概要と基礎的分析『社会と調査』11:101-106.
- ・伊藤守, 2012, 『ドキュメント テレビは原発事故をどう伝えたのか』平凡社新書.
- ・井上典之, 2014, 「スポーツとEU法 第11回 EU市民法とプロ・サッカー」『書齋の窓』636:14-18.
- ・猪口邦子, 1989, 『現代政治学叢書 17 戦争と平和』東京大学出版会.
- ・恵庭市, 2011, 「第4期恵庭市総合計画 水・緑・花 人がふれあう 生活都市えにわ 〈後期基本計画〉2011-2015」.
- ・恵庭市教育委員会, 2011, 『第3期恵庭市生涯学習基本計画 楽しく学んでその成果が生かされる地域づくり』.
- ・恵庭市教育委員会, 2014, 『平成26年度 恵庭市の社会教育』.
- ・恵庭市教育委員会社会教育委員, 2014, 『つぎへの一步 自主研修会の感想・記録集 二年間の足跡&十人十色なメッセージ vol.4【平成24~25年度】』.
- ・NHK旭川放送局編, 2013, 『知らなかった、こんな旭川』中西出版.
- ・尾林邦匡, 2014, 「TPPと地方自治体 自治体政策の工夫が非関税障壁にされる」『季刊自治と分権』55:73-81.
- ・カルピス株式会社, 2013, 「CSRレポート2013 社会と共に未来をつくる」.
- ・北の縄文文化を発信する会編, 2012, 『北の縄文連続講座・記録集 縄文人はどこからきたか?』インテリジェント・リンク.
- ・北の縄文文化を発信する会編, 2013, 『北の縄文連続講座・記録集2 縄文人はどこへいったか?』インテリジェント・リンク.
- ・北のめぐみ愛食フェア実行連絡会, 2014, 「北のめぐみ愛食フェア2014」.
- ・木野龍逸, 2013, 『検証福島原発事故・記者会見2 「収束」の虚妄』岩波書店.
- ・木野龍逸, 2014, 『検証福島原発事故・記者会見3 欺瞞の連鎖』岩波書店.
- ・木村幹, 2009, 『近代韓国のナショナリズム』ナカニシヤ出版.
- ・孝本貢, 1984, 「北海道地域社会における神社形成過程 日高・浦河町地方の事例研究」『明治大学人文科学研究所紀要』4:35-79.
- ・国際協力NGOセンター／ADRA Japan／こどもみらい測定所, 2014, 『はかる、知る、くらす 子どもたちを放射能から守るために、わたしたちができること。』.
- ・国土交通省北海道開発局事業振興部都市住宅課, 2013, 「始めよう、コンパクトなまちづくり

都市の低炭素化の促進に関する法律』『開発こうほう』 597:8-12.

- ・小島道裕, 2003, 「地域的祭祀の期限と機能 守山市小津神社祭祀圏を事例に」『国立歴史民俗博物館研究報告』 96:5-16.
- ・近藤大介, 2014, 『金正恩の正体 北朝鮮権力をめぐる死闘』平凡社新書.
- ・紺野雅子, 2011, 『民話集 とうわものがたり』.
- ・さっぽろ産業振興財団／札幌市経済局, 2013, 「札幌市経済界フォーラム 世界の食料市場における北海道食産業の課題と可能性」『開発こうほう』 597:1-7.
- ・サッポロホールディングス, 2014, 『サッポログループ CSR レポート 2014』.
- ・佐藤英夫, 1989, 『現代政治学叢書 20 対外政策』東京大学出版会.
- ・柴田悠, 2014, 「自殺率に対する積極的労働市場政策の効果 OECD26 カ国 1980～2007 年のパネルデータ分析」『社会学評論』 65(1):116-133.
- ・渋谷信義, 1992, 『ケンケン鳥お背戸のズサぬ木 明治初期仙台亙理から伊達開拓移住者たちの会話』
- ・「島義勇伝」製作委員会, 2014, 『島義勇伝』エアードライブ.
- ・清水修二, 2012, 『原発になお地域の未来を託せるか 福島原発事故—利益誘導システムの破綻と地域再生への道』自治体研究社.
- ・清水武男 (文:松村隆), 2012, 『江差・姥神大神宮渡御祭 北前船が今に残した三百七十年の祭り』NPO 法人・魅せる北海道.
- ・社会調査協会編, 2013, 「小特集:フィールドワークにおける倫理問題」『社会と調査』 11:47-69.
- ・知床博物館, 1980, 「知床博物館第 2 回特別展 オクシベツ川流域の先史文化」斜里町立知床博物館協力会.
- ・知床博物館, 1981, 「知床博物館第 3 回特別展 斜里 下町の歴史散歩」斜里町立知床博物館協力会.
- ・知床博物館, 1987, 「知床博物館第 9 回特別展 消えた北方民族 オホーツク文化の終えん」斜里町立知床博物館協力会.
- ・鈴木岳, 2013, 「キプロスの歴史と現況・協同組合史」『生活協同組合研究』 452:71-78.
- ・生協総合研究所編, 2014a, 「特集:貧困問題と生協の取り組み」『生活協同組合研究』 460:4-50.
- ・生協総合研究所編, 2014b, 「特集:今日の労働実態から将来展望へ」『生活協同組合研究』 461:4-44.
- ・生協総合研究所編, 2014c, 「特集:日本農業の変わり目と問われる適応能力」『生活協同組合研究』 466:4-50.
- ・清野正義編, 1997, 『東北の小さな村』恒星社厚生閣.
- ・石任生／安海龍 (韓興鉄訳), 2007, 『北朝鮮の日常風景』コモンズ.
- ・関礼子, 2014, 「尾瀬・檜枝岐という『秘境』の変容 映像でみる保護と観光のまなざし」『応

用社会学研究』56:93-107.

- ・成元哲／牛島佳代／松谷満, 2014, 「1,200 Fukushima Mothers Speak アンケート調査の自由回答にみる福島県中通りの親子の生活と健康」『中京大学現代社会学部紀要』8(1):91-194.
- ・高島裕美, 2014, 「教員の職場における『ジェンダー・バイアス』 女性教員の職務配置のあり方に着目して」『現代社会学研究』27:37-53.
- ・武石礼司, 2014, 『東南アジアのエネルギー 発展するアジアの課題』文眞堂.
- ・武田芳則, 2014, 「公立図書館の市場化 武雄市『TSUTAYA 図書館』:の何が問題か」『季刊自治と分権』57:56-67.
- ・巽好幸, 2014, 『和食はなぜ美味しい 日本列島の贈り物』岩波書店.
- ・伊達市噴火湾文化研究所, 2014, 『噴火湾文化』vol.8.
- ・田巻松雄編／夕張の歴史と文化を学ぶ会〔協力〕, 2013, 『夕張は何を語るか 炭鉱<sup>やま</sup>の歴史と人々の暮らし』吉田書店.
- ・辻由希, 2014, 「派遣労働再規制の政治過程 『一般労働者の代表』をめぐる政党間競争」『レビューアサン』55:59-86.
- ・鶴本花織／西山哲郎／松宮朝編, 2008, 『トヨタイズムを生きる 名古屋発カルチュラル・スタディーズ』せりか書房.
- ・鄭大均, 2004, 『在日・強制連行の神話』文春新書.
- ・苫小牧市教育委員会編, 2013, 「苫小牧再発見！」.
- ・ドレイファス, R., 2012, 「『アジア重視』の甘すぎた皮算用」『ニューズウィーク日本版』27(49):38-39.
- ・中井俊樹／鳥居朋子／藤井都百, 2013, 『大学の IR Q&A』玉川大学出版部.
- ・西山泰正, 2012, 「ロシア極東地域との『寒冷地ビジネス』の展開に向けて」『開発こうほう』591:7-11.
- ・日本原子力研究開発機構 (JAEA), 2012-2014, 「季刊 未来へげんき」NO.26-33.
- ・日本原子力研究開発機構 (JAEA) 広報部広報課, 2013a, 『環境報告書 2013』.
- ・日本原子力研究開発機構 (JAEA) 広報部広報課, 2013b, 「JAEA ニュース」vol.53-54.
- ・日本原子力研究開発機構地層処分研究開発部門, 2010, 「地層処分技術に関する研究開発」.
- ・ニューズウィーク日本版編集部, 2013, 「腐っているのはアップルだけか？」『ニューズウィーク日本版』28(22):34-38.
- ・ニューズウィーク日本版編集部編, 2012a, 「暴走する韓国 その不可解な思考回路」『ニューズウィーク日本版』27(33):22-37.
- ・ニューズウィーク日本版編集部編, 2012b, 「反日の行方 変質する反日、自滅する中国」『ニューズウィーク日本版』27(37):23-36.
- ・ニューズウィーク日本版編集部編, 2012c, 「進化できない韓国経済」『ニューズウィーク日本版』27(46):27-38.
- ・ニューズウィーク日本版編集部編, 2012d, 「韓国は成熟できるか 大統領選後の東アジア外

交と『非民主的経済』の行方』『ニューズウィーク日本版』27(49):25-37.

- ・ニューズウィーク日本版編集部編, 2013a, 「不仲な隣国日中韓の進路」『ニューズウィーク日本版』28(2):23-35.
- ・ニューズウィーク日本版編集部編, 2013b, 「ポスト中国の世界経済」『ニューズウィーク日本版』28(4):27-42.
- ・ニューズウィーク日本版編集部編, 2013c, 「ポスト中国の最有力国を探せ 東南アジア経済入門」『ニューズウィーク日本版』28(4):43-56.
- ・ニューズウィーク日本版編集部編, 2013d, 「父親より怖い? 金正恩の暴走」『ニューズウィーク日本版』28(12):27-35.
- ・ニューズウィーク日本版編集部編, 2013e, 「慰安婦問題という名の泥沼 『橋下発言』が招いた世界の大バッシング」『ニューズウィーク日本版』28(22):23-33.
- ・ニューズウィーク日本版編集部編, 2013f, 「危険水域の中国経済」『ニューズウィーク日本版』28(25):23-33.
- ・ニューズウィーク日本版編集部編, 2013g, 「韓国の自滅外交 歴史問題を口実に日本外しを目論む韓国『近視眼外交』の末路」『ニューズウィーク日本版』28(20):27-35.
- ・ニューズウィーク日本版編集部編, 2013h, 「反日韓国の妄想」『ニューズウィーク日本版』28(37):25-36.
- ・ニューズウィーク日本版編集部編, 2013i, 「アメリカも困惑する韓国の世界観」『ニューズウィーク日本版』28(46):25-34.
- ・狭間諒太郎／橋爪裕人／吉川徹, 2013, 「環境保護意識・健康維持意識の規定要因の時代変化」『社会と調査』11:70-84.
- ・バーナセック, A., 2013, 「若者の未来が食い尽くされる」『ニューズウィーク日本版』28(46):44-47.
- ・林美栄子, 2014, 「子育てを通じた地域参加の場づくりへ コープみらい・ちばエリアの子育て支援 12年の歩みから」『生活協同組合研究』460:51-56.
- ・原田謙／杉澤秀博, 2014, 「都市度とパーソナルネットワーク 親族・隣人・友人関係のマルチレベル分析」『社会学評論』65(1):80-96.
- ・日隅一雄／木野龍逸, 2012, 『検証福島原発事故・記者会見 東電・政府は何を隠したのか』岩波書店.
- ・桜枝岐村民族誌編纂委員会監修／関礼子編, 2014, 『桜枝岐村文化財調査報告書第2集 桜枝岐村の暮らしと地名』.
- ・平泉澄, 1979, 『物語日本史(上・中・下)』講談社学術文庫.
- ・平山裕人, 2014, 『アイヌの歴史 日本の先住民族を理解するための160話』明石書店.
- ・藤倉徹夫, 1989, 『叢書江別に生きる2 れんがと女』江別市／江別市教育委員会.
- ・フィンチ, S., 2012, 「タイをだめにする究極の愚策」『ニューズウィーク日本版』27(46):42-43.

- ・藤村建雄, 2010, 「8月15日以降の知られざる樺太の激戦」『丸』63(10):158-165.
- ・藤村建雄, 2013a, 「留萌沖三船殉難事件の真相」『丸』66(12):191-203.
- ・藤村建雄, 2013b, 「南樺太“看護婦集団自決事件”の哀惜」『丸』66(12):204-207.
- ・プラムディヤ・アナンタ・トゥール (山田道隆訳), 2004=2013, 『【増補改訂版】日本軍に棄てられた少女たち インドネシアの「慰安婦」秘話』コモンズ.
- ・北海道教育大学函館校まちワーク研究室, 2013, 『Machi-Work 2012 Handbook』.
- ・北海道教育大学函館校まちワーク研究室, 2014, 『Machi-Work 2013 Handbook』.
- ・北海道漁連／北海道昆布普及協議会, 2013, 「昆布流通に生きる 消費地発流通業者の情熱」.
- ・北海道こんぶ消費拡大協議会／北海道漁連, \*\*\*\*, 「歴史もレシピもこれ一冊 北海道の昆布」.
- ・堀田恭子／宇田和子, 2014, 「カネミ油症政策の現状 長崎県五島市を事例として」『環境と公害』43(3):44-47.
- ・北方民族博物館, 2006, 「第21回特別展—環北太平洋の文化I コリヤーク ツンドラの開拓者たち」北方文化振興協会.
- ・北方民族博物館, 2012, 『第27回特別展 東シベリア・サハ 永久凍土の大地に生きる』北方文化振興協会.
- ・マーゴリス, M., 2013, 「好調ブラジルの不可解な怒り」『ニューズウィーク日本版』28(25):34-36.
- ・町田佳世子, 2013, 「就職活動を控えた大学生のコミュニケーション能力に関する意識調査 北海道の企業調査との比較」『開発こうほう』603:35-39.
- ・毛利嘉孝, 2009, 『ストリート思想 転換期としての1990年代』NHKブックス.
- ・矢ヶ崎典隆, 2010, 『食と農のアメリカ地誌』東京学芸大学出版社.
- ・山下惣一編, 2001, 『安ければそれでいいのか?』コモンズ.
- ・山田大隆, 2012, 「北海道の発展を支えた港湾技術史から何を学ぶか 特に、積丹半島袋澗、松前町福山波止場、小樽港北防波堤の以降の保存と活用」『開発こうほう』591:26-27.
- ・山本吉宣, 1989, 『現代政治学叢書18 国際的相互依存』東京大学出版会.
- ・雪印メグミルク, \*\*\*\*, 「チーズの話」.
- ・除本理史／林美穂編 (宮本憲一／森脇君雄／小田康徳監修), 2013, 『西淀川公害の40年 維持可能な環境都市をめざして』ミネルヴァ書房.
- ・吉野敏行, 2002, 「岡崎市のごみ問題と解決の方法 ゼロエミッション岡崎をめざして」『人間と環境 人間環境学研究所研究報告』5:47-59.
- ・李泰 (安宇植訳), 1988=1991, 『南部軍 知られざる朝鮮戦争』平凡社.
- ・和爾桃子訳, 2012, 『ラトヴィア民話集』北海道東川町.
  
- ・Althusser, L., 1998, *Solitude de Machiavel*, Paris: Presses Universitaires de France. (=福井和美訳, 2001, 『マキャヴェリの孤独』藤原書店).
- ・L'Association ATTAC France, 2004, *L'Empire de la Guerre Permanente: tates-Unis et*

- Mondialisation*, Paris: Librairie Artheme Fayard. (=コリン・コバヤシ／松葉祥一／星野秀明／椎名亮輔／羽生のり子／湯川順夫訳, 2004, 『アメリカ帝国の基礎知識』 作品社).
- Bauman, Z., 2011, *Collateral Damage: Social Inequalities in a Global Age*, London: Polity Press. (=伊藤茂訳, 2011, 『コラテラル・ダメージ グローバル時代の巻き添え被害』 青土社).
  - Blumer, H., 1969, *Synbolic Interactionism: Perspective and Method*, Englewood Cliffs: Prentice-Hall, Inc.. (=後藤将之訳, 1991, 『シンボリック相互作用論 パースペクティブと方法』 勁草書房).
  - Braudel, F., 1949=1966, *La Mediterranee: et le Monde Mediterranee a l'Epoque de Philippe II*, Armand Colin, Deuxieme edition revue et corrigeed. (=浜名優美訳, 1992, 『地中海Ⅲ 集団の運命と全体の動き 2』 藤原書店).
  - Collier, P., 2007, *The Bottom Billion: Why the Poorest Countries are Failing and What Can Be Done about It*, Oxford: Oxford University Press. (=中谷和男訳, 2008, 『最底辺の10億人 最も貧しい国々のために本当になすべきことは何か?』 日経 BP 社).
  - Collier, P., 2009, *Wars, Guns, and Votes: Democracy in Dangerous Places*, London: Bodley Head. (=中谷和男訳, 2010, 『民主主義がアフリカ経済を殺す 最底辺の10億人の国で起きている真実』 日経 BP 社).
  - Cranston, M., 1967, *Freedom: A New Analysis* (3<sup>rd</sup> edition), London: Longmans. (=小松茂夫訳, 1976, 『自由 哲学的省察』 岩波新書).
  - Florida, R., 2008, *Who's Your City?*, London: Basic Books. (=井口典夫訳, 2009, 『クリエイティブ都市論 創造性は居心地のよい場所を求める』 ダイアモンド社).
  - Harden, B., 2012, *Escape from Camp14*, New York: Viking Books. (=園部哲訳, 2012, 『北朝鮮14号管理所からの脱出』 白水社).
  - Hersey, J., 1946=1985, *HIROSHIMA*, New York: Alfred A. Knopf. (=石川欣一／谷本清／明田川融訳, 1949=2003, 『ヒロシマ [増補版]』 法政大学出版局).
  - Hochschild, A., 1983, *The Managed Heart: Commercialization of Human Feeling*, University of California Press. (=石川准／室伏重希訳, 2000, 『管理される心 感情が商品になるとき』 世界思想社).
  - Huber, J. and Robertson J., 2000, *Creating New Money: A Monetary Reform for the Information Age*, London: New Economics Foundation. (=岩見尚／高安健一訳, 2001, 『新しい貨幣の創造 市民のための金融改革』 日本経済評論社).
  - Jirásek, A., 1894=1953, *Staré Pověsti české*, sv.44, KLHU: Praha. (=浦井康男訳, 2011, 『チェコの伝説と歴史』 北海道大学出版会).
  - Johnson, C., 2010, *Dismantling the Empire: America's Last Best Hope*, New York: Metropolitan Books. (=雨宮和子訳, 2012, 『帝国解体 アメリカ最後の選択』 岩波書店).
  - Kitsuse, J.I. & Specter, M.B., 1977, *Constructing Social Problems*, Menlo Park, CA:

- Cummings Publishing Company. (=村上直之/中河伸俊/鮎川潤/森俊太訳, 1990, 『社会問題の構築 ラベリング理論をこえて』 マルジュ社).
- Knecht, G.B., 2006, *Hooked: Pirates, Poaching, and the Perfect Fish*, Robbins Office Inc.. (=杉浦茂樹訳, 2008, 『銀だらクライシス 「金を生む魚」の乱獲と壊れゆく海』早川書房).
  - Lipietz, A., 2002, *La Théorie de la Régulation*. (=若森章孝/若森文子訳, 2002, 『社会学の思想 6 レギュレーションの社会理論』青木書店).
  - McQuaig, L., 2004, *It's the Crude, Dude: War, Big Oil and the Fight for the Planet*, Doubleday (=増岡賢訳, 2005, 『ピーク・オイル 石油争乱と 21 世紀経済の行方』作品社).
  - Nussbaum, M.C., 2010, *Not for Profit: Why Democracy Needs the Humanities*, Princeton: Princeton University Press. (=小沢自然/小野正嗣訳, 2013, 『経済成長がすべてか? デモクラシーが人文学を必要とする理由』岩波書店).
  - Sebestyen, V., 2006, *Twelve Days: Revolution 1956 How the Hungarians Tried to Topple their Soviet Masters*, London: Weidenfeld & Nicolson. (=吉村弘訳, 2008, 『ハンガリー革命 1956』白水社).
  - Sen, A., 1973=1997, *On Economic Inequality*, Expanded edition with a substantial annexe by James E. Foster and Amartya Sen, Oxford: Clarendon Press. (=鈴木興太郎/須賀晃一訳, 2000, 『不平等の経済学 ジェームス・フォスター, アマルティア・センによる補論「四半世紀後の『不平等の経済学』」を含む拡大版』東洋経済新報社).
  - Twardecki, A., 1969=1975, *Szkola Janczarów [3<sup>rd</sup> edition]*, Warszawa: Iskly. (=足達和子訳, 1991=2014, 『ぼくはナチにさらわれた』平凡社).

#### 社会学ゼミであつかった文献一覧<2014 年度>

- 阿部彩, 2014, 『子どもの貧困Ⅱ 解決策を考える』岩波新書.
- 本田由紀, 2009, 『教育の職業的意義 若者、学校、社会をつなぐ』ちくま新書.
- Stuart, T., 2009, *Waste: Uncovering the Global Food Scandal*, London: Penguin Books. (=中村友訳, 2010, 『世界の食料ムダ捨て事情』NHK 出版).

#### 社会学演習等であつかった文献一覧<2014 年度>

- Florida, R., 2002, *The Rise of the Creative Class*, New York: Basic Books. (=井口典夫訳, 2008, 『クリエイティブ資本論 クリエイティブ・クラス 新たな経済階級の台頭』ダイヤモンド社).
- Lovins, A.B. and Rocky Mountain Institute, 2011, *Reinventing Fire*, White River Junction: Chelsea Green Publishing. (=山藤泰訳, 2012, 『新しい火の創造 エネルギーの不安から世界を解放するビジネスの力』ダイヤモンド社).
- Polanyi, K., 1944=2001, *The Great Transformation: The Political and Economic Origins*

- of Our Time*, Boston: Beacon Press. (=野口建彦／栖原学訳, 2009, 『〔新訳〕大転換 市場社会の形成と崩壊』東洋経済新報社).
- Wilkinson, R., *The Impact of Inequality: How to Make Sick Societies Healthier*, New York: The New Press. (=池本幸生／片岡洋子／末原睦美訳, 2009, 『格差社会の衝撃 不健康な格差社会を健康にする法』書籍工房早山).
  - Wilkinson, R and Pickett, K., 2009, *The Spirit Level: Why More Equal Societies Almost Always Do Better*, Allen Lane. (=酒井泰介訳, 2010, 『平等社会 経済成長に代わる、次の目標』東洋経済新報社).
  - 池上甲一／原山浩介編, 2011, 『食と農のいま』ナカニシヤ出版.

#### 社会学特別演習文献一覧

- 秋本倫子, 2012, 「V.E.フランクフル『夜と霧』再訪 “運命”の生き方」『東洋英和女学院 人文・社会科学論集』 30:59-82.
- 石田雅樹, 2012, 「ハンナ・アーレントにおける『政治』と『教育』 シティズンシップ教育の可能性と不可能性」『宮城教育大学紀要』 47:27-36.
- 伊藤直, 2012, 「アルベール・カミュ『シシュエポスの神話』における死の問題」『青山総合文化政策学』 5:163-179.
- 植木哲也, 2004, 「隠された知 アイヌ教育と開拓政策」『苫小牧駒澤大学紀要』12:17-32.
- 大塚和義, 2004, 「現代におけるアイヌ民族自立運動に関する諸問題 近代の同化政策から現在の新法制定論議まで」『国立民族学博物館調査報告』 50:137-145.
- 小川正人, 1997, 「コタンの“エパカシヌ・ニシハ” アイヌ学校の教員とコタンとの関わり」, 『近代アイヌ教育制度史研究』北海道大学図書刊行会, pp.248-276.
- 海保洋子, 1992, 「人類館事件」, 『近代北方史 アイヌ民族と女性と』三一書房, pp.155-168.
- 柏葉武秀, 2010, 「リベラリズムと障害者」『応用倫理』 3:34-44.
- 権安理, 2005, 「ハンナ・アーレントにおける『死』をめぐって 判断の位置」『現代社会学理論研究』 15:208-229.
- 関口由彦, 2005, 「『滅びゆく人種』言説に抗する『同化』 1920～30年代のアイヌ言論人の抵抗」『国立民族学博物館研究報告』 29(3):467-494.
- 竹ヶ原幸朗, 2010, 「遠藤正明のアイヌ授業実践と開発主義教授法 札幌県のアイヌ教育をめぐって」『教育のなかのアイヌ民族 近代日本アイヌ教育史』社会評論社, pp.116-134.
- 内藤隆夫, 2011, 「北海道近代史研究のための覚書」『経済学研究』 61(3):22-35.
- 森分大輔, 2005, 「国民国家とナショナリズム ハンナ・アーレントのナショナリズム論」『社会科学ジャーナル』 54:139-162.
- Arendt, H., 1950, *Social Science Techniques and the study of Concentration Camps*,

*Jewish Social Studies*, 12/1. (=齋藤純一訳, 2002, 「社会科学のテクニックと強制収容所の研究」, 齋藤純一／山田正行／矢野久美子共訳, 『アーレント政治思想集成 2 理解と政治』みすず書房, pp.27-46).